

次期・生物多様性 神戸プラン 素案

目次

- 1 生物多様性神戸プランについて
- 2 生物多様性はなぜ重要？～私たちの命と暮らしを支えるもの～
- 3 神戸市の生物多様性の特徴と取り組み
- 4 神戸市の生物多様性を取り巻く現状と課題
- 5 神戸プランのめざすもの

1 生物多様性神戸プランについて

〈本プラン策定の趣旨〉

2011年2月に生物多様性地域戦略である「生物多様性神戸プラン2020」を策定、2016年3月に改定を行い、自然共生社会を実現するための施策を推進してきました。現行プランの計画対象年度は2025年度までであるため、2026年度以降を計画期間とする次期地域戦略を策定することとしました。

世界では、2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」が採択され、国内でもこれに対応した「ネイチャーポジティブ（自然再興）」や「30by30目標」などを目指した「生物多様性国家戦略2023-2030」が策定（2023年3月）され、兵庫県においても「生物多様性ひょうご戦略」が策定されるなど、生物多様性を取り巻く情勢は変化しています。それら国内外の動向と整合を図り、本市の生物多様性の特徴や状況を踏まえつつ、ネイチャーポジティブの実現を目指し、三本柱の基本戦略を据えて、生物多様性に貢献するさまざまな取り組みをさらに推進していくため、本プランを策定しました。

〈位置づけ〉

本プランは「生物多様性基本法」第13条に基づく、神戸市域における生物多様性の保全および持続可能な利用に関する基本的な計画です。また、「神戸市民の環境をまもる条例」第7条に基づく「神戸市環境マスタープラン（神戸市環境基本画）」の個別計画です。

〈対象地域〉

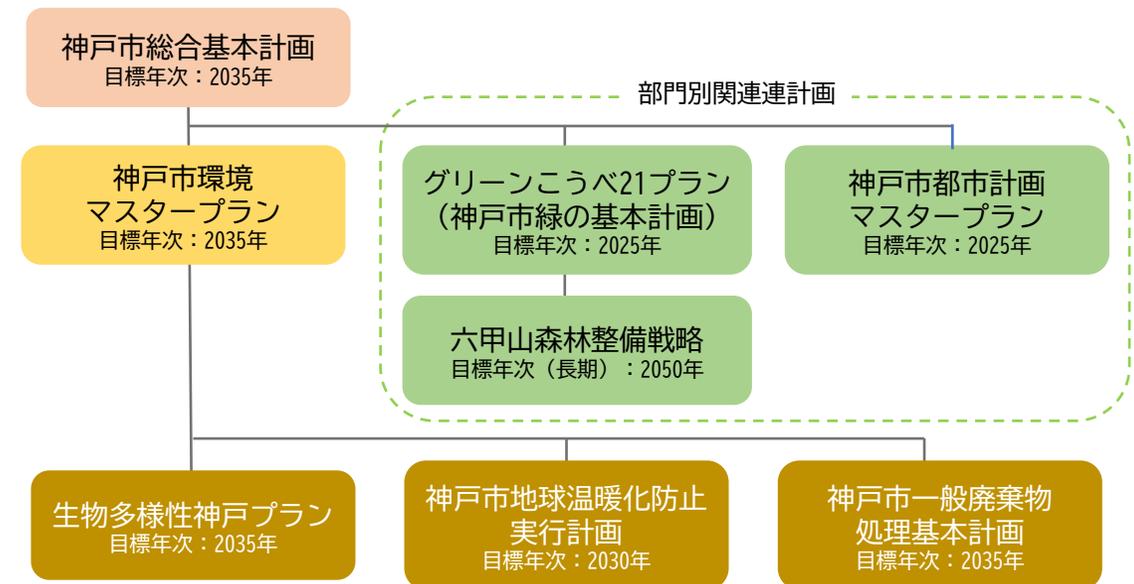
本プランの対象とする地域は、神戸市域全域とします。

〈国・県・市の動向〉

- ・ 昆明・モンテリオール生物多様性枠組（30by30目標など）との整合
- ・ 上位計画（次期・総合基本計画・環境マスタープラン）の見直し・改定との整合
- ・ 「生物多様性国家戦略2023-2030」（2023年3月策定）、「生物多様性ひょうご戦略」（2025年3月改訂）等、その他関係する計画を踏まえた考え方の整理
- ・ その他、「TNFD」（企業の生物多様性に関する取組みの情報開示を求める国際的ガイドライン）などの新たな仕組みとの整合

〈計画期間〉

計画期間は、2026年度から2035年度とし、2030年度に中間見直しを行います。



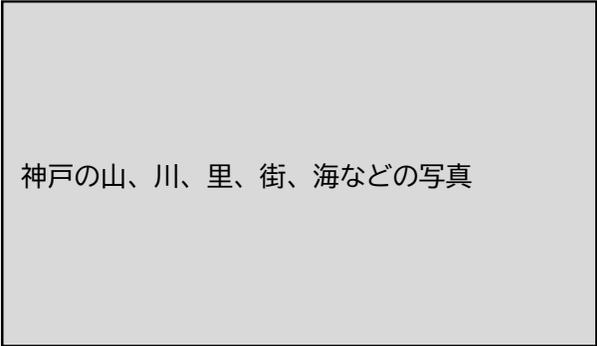
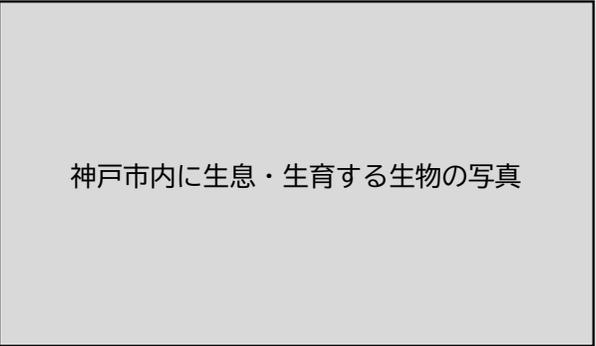
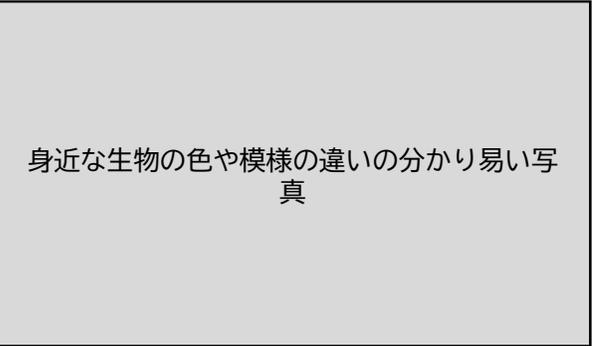
生物多様性神戸プランの位置づけ

2 生物多様性はなぜ重要？～私たちの命と暮らしを支えるもの～

〈生物多様性とは〉

地球上のさまざまな環境に、多種多様な生きものたちが生息・生育しています。生物多様性とは、それらの生きものの豊かな個性とつながりのことをいいます。私たちの暮らしは、生物多様性の恵みにより支えられています。

生物多様性には「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」の3つのレベルがあります。

<p>【生態系の多様性】 神戸には、里地里山、河川、海、などいろいろなタイプの生態系があり、それらが街の近くにあるのが特徴です。</p>  <p>神戸の山、川、里、街、海などの写真</p>	<p>【種の多様性】 動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生きものがおり、我々ヒトの生活が成り立っています。</p>  <p>神戸市内に生息・生育する生物の写真</p>	<p>【遺伝子の多様性】 同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があり、環境の変化等に対応しやすくなっています。</p>  <p>身近な生物の色や模様の違いの分かりやすい写真</p>
--	--	---

〈生物多様性の4つの恵み～生態系サービス～〉

<p>【供給サービス】 ～暮らしに必要な資源の提供～ 水や食べ物、木材や衣類、医薬品などは生物多様性の恵みから得られます。 布引溪流、千刈貯水池、多くの河川など豊かな水源があります。須磨のり、いかなごのくぎ煮、灘の清酒など自然の恵みを活かした特産品があります。</p>    <p>写真 写真 写真</p>	<p>【調整サービス】 ～安全で快適な環境を整える～ 空気や水をきれいにし、気候を調節して自然災害を防ぎます。 六甲山などの豊かな緑は表土の安定化等で減災・防災に役立っています。多くの緑はヒートアイランド現象の緩和、地球温暖化の原因となるCO2を吸収します。</p>    <p>写真 写真 写真</p>	<p>【文化的サービス】 ～癒しや文化の源～ 自然の中でのレクリエーションや美しい景観は、地域の文化的多様性の源となり、生活を豊かにします。 市内には古くから伝わる祭りや伝統行事があります。都市公園、森林植物園、王子動物園などは生きものとふれあう場になっています。</p>    <p>写真 写真 写真</p>
---	---	---

【基盤サービス】～生活の基盤の提供～

六甲山、瀬戸内海、里山、河川など多様な環境が水の循環、光合成による酸素の供給等の基盤となる恵みを与えてくれます。特に、里山では暮らしの中で人々が農業を営み水路やため池などを管理することにより豊かな恵みが維持されてきました。

2 生物多様性はなぜ重要？～私たちの命と暮らしを支えるもの～

〈生物多様性の4つの危機〉

【第1の危機】

人間活動や開発による危機

山林等の開発による生態系の破壊、生息生育空間の縮小・消失など

写真

写真

【第2の危機】

自然に対する働きかけの縮小による危機

農業の担い手不足等による、里地里山の管理不足、利用減少による環境の悪化など

写真

写真

【第3の危機】

人間により持ち込まれたものによる危機

オオクチバス、アカミミガメ、アライグマ等の在来種との競合等、生態系への悪影響など

写真

写真

【第4の危機】

地球環境の変化による危機

気温上昇とともに強い台風や極端な気象現象の増加による動植物への影響など

写真

写真

3 神戸市の生物多様性の特徴と取り組み

神戸市の多様な生態系と、生物多様性に関する主な取り組みなど

神戸は街の近くに海や山、農地の広がる里山があり、気軽に行き来することができます。いろいろな自然環境にはさまざまな動植物が生息・生育し、それらは全てつながっており、私たちの暮らしに欠かせないたくさんの恵みをもたらしてくれます。神戸の海、山、農地などのかけがえのない価値を見直して、豊かな生物多様性の魅力を、楽しく美味しく、楽しみながら、ますます向上させていくことが大切です。

市内には「自然共生サイト」など市民を中心とした取り組みがたくさんあります。

田園（里地・里山）

北区や西区には農地が広がっています。ため池や草地、明るい里山林に多様な生きものが棲んでいます。

自然共生サイト「神戸の里山林・棚田・ため池」

田園の写真

海岸・海域

西部は貴重な海浜植物が自生する海岸をはじめ、生きものの優れた生息・生育地となっています。またブルーカーボンの取り組みは地球温暖化対策と併せて、生物多様性保全にも貢献します。

ブルーカーボン

海浜植物

森林

六甲山地、丹生・帝釈山地を中心に広がる森林は生きものの生息・生育地としてだけでなく、水を貯える等の機能も有しています。

市民等の活動紹介



マップイメージ
(イラストマップ:Works-Press(株))

こ
詳
取
り
細
り
ら
情
報
組
み
の
は

二次元コード

市街地

多くの公園や街路樹、学校や企業敷地内のビオトープなどが生きものの棲みかとなっています。

エスバック
バンビの里

市街地緑化

河川

河川には、魚をはじめ昆虫や水生生物、鳥、両生類などが生息しています。山地の渓流から河口付近まで、多様な動植物が多く生息・生育しています。

市民等の活動紹介

〈神戸市の自然や生きものへの意識調査（アンケート等）結果等（2024年12月）から見えてきたもの〉

○市民へのアンケートでは、

「生物多様性」の認知度は約70%「外来生物」の認知度は約80%で、生きものや自然環境の知識や特定外来生物の防除に比較的高い認知度や一定の理解がありました。一方、「ネイチャーポジティブ」「生態系サービス」については認知度は30%程度に留まりました。また、生きものや自然環境の保全活動に参加したことがない人は約80%で、行動には繋がっていないという結果が得られました。

保全活動への参加に必要なものとしては、環境整備以外に、家族との参加や体力・時間などの余裕が必要とする回答も多く見られ、関連する広報に力を入れてほしいという意見も多くみられました。



○事業所へのアンケートおよびヒアリングでは、

79社中25社が生物多様性に関する方針や行動指針を策定するなど、何らかの活動を実施していました。活動の実施の有無にかかわらず、ネイチャーポジティブ経営を進めるための情報が不足していることが明らかになりました。

○市民団体へのアンケートおよびヒアリングでは、

活動に必要な人的、資金的な補助が必要であるとともに、仲間の増加や感謝の言葉など、人とのつながりをやりがいとしていることが分かりました。

4 神戸市の生物多様性を取り巻く現状と課題

〈生物多様性に関連する課題〉

○生きものによる生態系被害

シカやイノシシの生息数の増加や生息域の拡大による農作物被害や森林被害、アライグマやクビアカツヤカミキリ、ナガエツルノゲイトウなどの特定外来生物による在来種や、地域本来の自然環境への悪影響が懸念されます。

○生態系ネットワークの連続性の分断

生態系が孤立しないように、森林、河川、川沿いの並木、庭や公園、緑地、街路樹、ため池、農地などにより、水と緑のネットワークを形成し、生きものの生息・生育環境や移動経路などの連続性の確保を図っていく必要があります。

○里山林や耕作地の管理放棄

耕作地が管理放棄されると、田畑やため池は荒れ、ネザサ類の繁茂や竹林の拡大、本来は夏緑樹が優占すべき里山林が常緑樹が優占する森林へ遷移することによる生物多様性の低下が起こります。里山林や耕作地を保全することは希少種を含め生きものの多様性を維持していくために重要であり、これらは都市部で生活する人々にもなくてはならないものです。

○海域の藻場や干潟の消失

海域の海藻（ワカメなど）・海草（アマモなど）による、大気中の二酸化炭素を吸収・固定するブルーカーボンに関する取り組みは、温暖化防止、水質の改善、水生生物の生息環境創出、漁場環境の維持・改善のほか、環境教育の場としての活用など、多面的な価値が注目されています。身近にある海への理解や関心を高めることも重要です。

○地球温暖化

地球温暖化は、生態系や自然環境にさまざまな影響を与えています。急速な気候変動や異常気象の頻発などの影響で、生きものの生息・生育環境が変化し、生物種の減少や消滅など、生物多様性が失われることが危惧されています。また、変化した環境に適応した外来生物が増えるなど、さまざまな影響は私たちの生活にも影響を及ぼします。

○都市化による影響

地球温暖化に加えて、都市化に伴うヒートアイランド現象による気温上昇が起きています。ヒートアイランド現象とは、アスファルト等に覆われた地域の拡大や、緑地の減少、植生域の縮小から、都市部の気温が郊外部と比較して高くなる現象をいいます。都市部が増えることで、里山は減少し、生物多様性が失われるだけでなく、熱中症や集中豪雨等による人命にも危険が生じます。

○生きものの生息・生育情報の収集と蓄積

生物多様性に対する脅威の影響や保全活動の効果などを正確に評価するために、今と昔の生きものの生息・生育情報が欠かせません。市民参加型による広範にわたる情報収集と同時に、専門家による効果的・継続的な情報収集の体制構築が必要です。

めざすべき
将来像

多様ないのちを育む豊かな自然とその恵みを次世代につなぐ自然共生都市 “こうべ”

【 戦 略 】

基本戦略 1

豊かな自然を守り育てる

生物多様性豊かな自然環境を保全・再生・創出し、次世代に継承する

【 主な方針 】

- ①多様な生物の生息・生育環境の保全・創出
- ②人の手が入らないこと等による生物多様性の喪失・恵みの低下への対応
- ③特定外来生物対策
- ④野生鳥獣被害防止対策

基本戦略 2

自然の力を活かし、社会を支える

自然の生み出す資源の循環を促進し、自然の機能を活かした社会課題の解決を進めていく

- ①森林（里山）等の資源の循環・活用
- ②自然の多様な機能を活かした社会課題の解決
- ③農水産業の振興
- ④環境保全型農水産業の推進
- ⑤農村部と都市部の交流による地域課題解決を目指す取り組みの推進

基本戦略 3

自然の豊かさを知り、活動し、
未来の担い手を育てる

市民等が自然の恵みや価値を認識し、行動や担い手育成につなげる

- ①地域の自然から学ぶ取り組みの推進
- ②環境学習の機会の創出・確保
- ③人材の育成
- ④市民団体などによる生物多様性を保全するため制度整備・運用（補助金など）
- ⑤保全活動への参画促進に向けたしくみづくり
- ⑥主体間の連携促進、各主体の活動促進に寄与する取り組みの実施
- ⑦生物の生息・生育情報などの情報収集と発信

基本戦略①「豊かな自然を守り育てる」

～生物多様性豊かな自然環境を保全・再生・創出し、次世代に継承する～

〈方向性・考え方〉

「ネイチャーポジティブ」や「科学的根拠に基づく視点」を重視します。また、外来生物対策を強化します。

〈主な方針〉

- ①多様な生物の生息・生育環境の保全・創出
 - ・森林、田園、市街地、河川、海などをつなぐ生態系ネットワークの保全・再生
 - ・公園や事業所等の緑地整備や管理の推進
 - ・自然共生サイトの認定に向けた支援の実施（ビオトープ整備等への専門家派遣）
- ②人の手が入らないこと等による生物多様性の喪失・恵みの低下への対応
 - ・重要な里地・里山の保全・管理と里山地域の再生に向けたモデル的取り組みの推進と仕組みづくり
- ③特定外来生物対策
 - ・特定外来生物（アライグマ、クビアカツヤカミキリ等）の捕獲、駆除等の対策強化（周辺市町や専門家等との連携）
- ④野生鳥獣被害防止対策
 - ・センサーカメラなどのICT活用も含めた、シカの侵入・定着防止対策の更なる強化（周辺市町や専門家等との連携）

〈行動目標：市民〉

- 庭、ベランダ、生け垣、壁面等の在来植物（地域性種苗等）を用いた緑化に努め、動植物の生息・生育空間を創出します。
- 野生鳥獣にエサを与えないようにし、ペットは野外へ逃がしたり、放したりせず、最後まで責任を持って飼育します。
- 特定外来生物の防除に協力し、野外に生息・生育する希少な生きものを採取したり、移動させたりしません。
- 市や団体等が行う生物多様性保全活動に積極的に参加します。
- スマホのアプリ等を活用し、市域の動植物の生息・生育状況等の調査に積極的に参加します。

〈行動目標：事業者〉

- 開発行為にあたっては、地域の生態系に悪影響を及ぼさないよう計画段階から十分に検討します。
- 工場・事業所等では、在来種（地域性種苗等）を用いた緑化に努め、遊休地がある場合には、ビオトープ作りを推進し、それらを活用した希少種等の保全に取り組みます
- 生態系に影響を及ぼすような化学物質は使用しません。
- 市域で行われている生物多様性保全活動や調査に積極的に参加・支援します。

〈指標案〉

- ◆自然共生サイト※（OECM）の認定登録数（または認定面積・割合など）
- ◆在来種の種数を減らさない、希少な動植物の生息・生育地を減らさない ◆神戸版レッドリストにおいてランクアップや追加となる種を○種以下にする
- ◆神戸版レッドリストにおいてランクダウンや削除となる種を○種以上にしない ◆シカを六甲山に定着させない

※自然共生サイト：「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域。認定区域は、保護地域との重複を除き、「OECM」として国際データベースに登録される。

基本戦略②「自然の力を活かし、社会を支える」

～自然が生み出す資源の循環を促進し、自然の機能を活かした社会課題の解決を進めていく～

〈方向性・考え方〉

森林（里山）等の資源の循環利用、生態系（自然環境）を活かした防災・減災、気候変動の緩和の推進、人々の健康と福祉の向上を図ります。

〈主な方針〉

- ①森林（里山）等の資源の循環・活用
 - ・森林等の資源を活用し循環させる取り組みの促進（こうべ森と木のプラットフォーム等）
- ②自然の多様な機能を生かした社会課題の解決
 - ・ブナ林（夏緑樹林）の保全・再生、藻場の育成等
 - ・生態系を活かした防災・減災の推進（Eco-DRR）
 - ・都市部の緑化促進（気候変動の緩和）
- ③農水産業の振興
 - ・生産の担い手の確保、農水産物のブランド化（認証制度）、地産地消の推進
- ④環境保全型農水産業の推進
 - ・有機農業の推進
 - ・化学肥料使用料の低減＋市内循環型資源の利用（BE KOBE農産物）
- ⑤農村部と都市部の交流による地域の課題解決を目指す取り組みの推進
 - ・週末農業、ネクストファーマー、里山暮らし等の促進

〈行動目標：市民〉

- 地域でとれた農産物（BE KOBE農産物）水産物、旬の食材を積極的に献立に取り入れます。
- 生物多様性や環境に配慮して生産された商品を選びます。
- 農村地域の活性化や生物多様性保全に向けた活動に、積極的に参加します。
- エコツアー・エコツーリズムに積極的に参加します。

〈行動目標：事業者〉

- 社員食堂などで地元産の農水産物の購入、消費に努めます。
また、不揃いな野菜・果物も積極的に購入します。
- 農村地域の活性化や生物多様性の保全のための取り組みに、積極的に参加するとともに、それらの活動を支援します。

〈指標案〉

- ◆持続可能な市内の木材の流通量
- ◆防災林整備の面積
- ◆ネクストファーマー研修受講者数
- ◆企業版ふるさと納税（里地里山の生物多様性保全、ブルーカーボンの活用等）件数
- ◆ブルーカーボン（藻場）の面積、CO2 吸収量

基本戦略③「自然の豊かさを知り、体験し、未来の担い手を育てる」

～市民等が自然の恵みや価値を認識し、行動や担い手育成につなげる～

〈方向性・考え方〉

生物多様性保全のための意識向上や、行動変容、幼少期からの環境学習を支援し、企業のネイチャーポジティブ経営、企業による保全活動、里山移住を促進します。

〈主な方針〉

- ① 地域の自然から学ぶ取り組みの推進
 - ・神戸の豊かな自然環境を活かした、野外活動やワークショップ等、多様な世代に向けた環境学習の促進
 - ・学校給食での地産地消の向上と食育
- ② 環境学習の機会の創出・確保
 - ・幼少期の環境学習（自然体験を通じて豊かな感性を育む）の実施、支援の推進
- ③ 人材の育成
 - ・森林整備人材やボランティアなど、新たな担い手の育成・確保の推進
 - ・生きものと人をつなぐ、自然に触れて、遊び、体験する楽しさを伝える人材の育成
- ④ 市民団体などによる生物多様性を保全するための制度整備・運用（補助金など）
- ⑤ 保全活動への参画促進に向けたしくみづくり
 - ・企業のネイチャーポジティブ経営に向けた具体的取り組み支援（自然資本を活用した経営の実践等に関するフォーラムの開催）
 - ・企業による保全活動の支援の充実
- ⑥ 主体間の連携促進、各主体の活動促進に寄与する取り組みの実施
- ⑦ 生物の生息・生育情報などの情報収集と発信
 - ・専門家等による効果的・継続的なモニタリングの実施体制の構築と、環境DNA調査、市民参加型調査など各種調査の推進

〈行動目標：市民〉

- 市域の豊かな自然に出かけ、楽しく自然と触れ合う機会をもちます。
- 市民や事業者、市民団体等の情報交換の場に積極的に参加します。
- 地域で行われる学習会、自然観察会、環境保全活動等に積極的に参加し、地域の自然の実情を学びます。

〈行動目標：事業者〉

- 事業活動による自然環境への負荷の最小化と環境への貢献の最大化を図るとともに、自然環境や生物多様性への影響を評価し、積極的に情報開示をします。
- 社員等が行う自然環境保全活動を積極的に支援します。
- 市民団体等が行う地域の里山等の保全活動を支援します。また、健康増進やレクリエーションの場として活用し、社員の参加を促進します。

〈指標案〉

- ◆外来生物展示センターの来場者数（団体数）
- ◆企業のネイチャーポジティブ経営に関連した支援件数
- ◆小学生向け出前授業の実施回数